

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第3回世界弓道大会



第3回世界弓道大会

団体競技は日本が連覇

個人競技 称号者の部 高橋 克徳 が優勝を飾る
個人競技 有段者の部 長谷川 雅亮



団体競技・優勝＝日本。決勝での初矢

第3回世界弓道大会（主催Ⅱ国際弓道連盟）が4月23日～25日の3日間、全日本弓道連盟中央道場と明治神宮武道場至誠館弓道場において、盛大に開催された。

大会では、国際弓道連盟加盟団体による団体競技（20カ国・地域が参加）と、個人競技（称号者の部、有段者の部）（35カ国・地域・団体より881名が参加）が行われた。

4で破り、第2回大会に続いて連覇を達成した。個人競技・称号者の部では、日本の高橋克徳（錬士六段、青森）が優勝。個人競技・有段者の部では、日本の長谷川雅亮（四段、東京）が優勝。この他に、称号者の部、有段者の部とも日本勢がそれぞれ入賞を果たし、日本は団体競技で優勝、個人競技2部門で3位までを独占。弓道発祥の国としての堂々たる成績を残した。



3日間に亘って高円宮久子妃殿下がご臨席された



海外から多くの選手が参加した



中野秀也範士八段による矢速

■団体競技（20カ国・地域）

3人順立で1チーム24射の予選を行い、的中数の上位8チームが決勝トーナメントに進出した（同中の場合、競射は1チーム3射で総的中数の多いチームを上位とした）。

決勝トーナメントは、1チーム12射により競われ、同中の場合は順位が決するまで一本競射が行われた。

◆予選（24日午前より）

20カ国・地域が参加した。連覇がかかる日本チームは、雨風が吹きつける悪天候の中、1回目で森川繁孝と友安正人が皆中。橋本隆志も2中とし、計10中。プレッシャーをはね退け、好調な出だしとなった。続く2回目でも計9中とし、合計で19中。予選1位で勝ち上がった。近年実力をつけてきた台湾が15中で2位通過、イタリアが13中、リトアニアとイギリスが12中、フィンランドが11中と続いた。ルーマニア、フランス、アメリカが10中であつたため、同中競射が行われ、フランスとルーマニアが接戦を制し、勝ち進んだ。

◆決勝トーナメント（25日午後より）

▼1回戦

日本はルーマニアと対戦。開始直後に大前の森川が失中するが、その後は安定した射をみせて10中。ルーマニアも9中と健闘するものの、10―9の僅差で日本が決勝に進出した。

台湾はフランスと対戦。始めにチエンサ・チン、チイシャン・チェンと続けて失中するものの、その後は調子を取り戻し、9―3でフランスを破った。

イタリアはフィンランドとの対戦を5―5とし、一本競射を行った。4回におよぶ競射をイタリアが7―5で制し、準決勝へと進んだ。そのほか、リトアニアがイギリスを6―4で降し、駒を進めた。

▼準決勝

日本 12―2 リトアニア
日本はリトアニアと対戦。日本チームは1本目から森川が中て、橋本、友安もそれに続く。リトアニアが2本目を全員外すなど調子が崩れるなか、日本は3名全員が皆中を成し遂げ、順当に決勝へと勝ち進んだ。



団体競技・3位＝イタリア



団体競技・準優勝＝台湾

台湾 5―3 イタリア

一方、台湾は同中競射の接戦を制したイタリアと対戦。台湾メンバーは調子を崩し、3人とも4射のうち2射〜3射を外して計5中。しかし、イタリアが合計で3中とさらに振わず、台湾が決勝に進出した。

▼3位決定戦

イタリア 5―3 リトアニア

始めにイタリアの大前が失中。リトアニアの中は的中させる。1本目を終えて0―1。2本目、イタリアは2中、リトアニアは1中となり、この時点で2―2。イタリアは試合を五分に戻した。後半、イタリアは3中を的中させて、計5中。対するリトアニアは1中に止まり、計3中。イタリアはリトアニアに逆転し、3位に入賞した。

▼決勝

日本 10―4 台湾

注目が集まる中、日本は3名とも初矢を詰める。対して台湾は、大前のチン、中のチェンと振わず、外して1中となる。二の矢も日本は全体的中し、計6中で折り返す。一方、

台湾はまさかの全員失中となり、計1中。台湾は優勝が大きく遠のいた。後半、日本は大前の森川、落の友安が1射ずつ外すものの、計10中。安定した射を行った日本が連覇を達成した。

◆入賞団体インタビュー

◎優勝Ⅱ日本チーム

連覇を達成した日本。選手たちから出た初めの言葉は、異口同音に「ホッとしました」であった。「日本が勝って当たり前という雰囲気でしたが、必ず勝てるとは限らないのが弓道です。実際に第1回大会で日本は、予選敗退となっていました。今回も選手たちは相当な重圧の中での射技であったと思います」と弓道連盟役員は選手たちの心境を述べた。選手たちの開口一番の言葉は心底から出た本音であろう。

昨年の12月に選手を選考・決定し、全国各地から様々な職種の選手4名が集い、本番となる試合をイメージして計4回の合宿を行った日本代表。「選手が一丸となったチームワークの勝利だと思います。私は『選手がやってくれる』との確信のもと

で今大会に臨みました」と日本チームの本多政和監督（範士八段、愛知県）は語る。選手間の絆と監督との信頼関係がうかがえる。続けて「大会では選手の皆さんには、強化練習通りの射をしていただきました。監督として一番の喜びです」と語り、満面の笑みを見せた。

「ルーマニアとの1戦目が一番苦しかったです」と森川繁孝選手（五段、神奈川）は大会を振り返る。「自分が暴発みたいに失中してしまつて、そこから崩れてしまいました。しかし、橋本選手、友安選手と続けて中ててくれました。一方、橋本隆志選手（五段、鹿児島）からは「昨日の予選では「ガチガチになつて全然ダメでしたが、今日はリラックスして何も考えずに臨むことができました」。友安正人選手（教士六段、石川）からは「チーム一丸となつて、監督の献身的なサポートの下、自分に集中できたことが良かったです」と己自身とうまく向き合い、順調に行なえた旨の所感が両名から語られた。最後に補欠であった和田尚樹選手（教士六段、広島）からは「次は自分も出られるように、実力をつけ

て頑張ろうと思います」との感想が述べられた。

しかし、自分に集中できたといえども台湾にいたっては予選で2位となる15中での通過。1回戦のフランス戦も9中であつた。日本に肉薄する的中数であつた強豪台湾。そして「勝てるとは限らないのが弓道です」との件の話を加味すると、選手たちはどうしても決勝では台湾を意識してしまったのではないか…。

「目の前の対戦相手でなくて、一人ひとりが自分の試合をすれば、結果



台湾選手と健闘を讃え合う日本チーム



左から森川選手、和田選手、本多監督、高円宮妃殿下、中野国際弓道連盟会長、友安選手、橋本選手

は自ずとついてくるものです。です

ので選手たちは、相手チームのことは考えず、自分に集中して引いたと思います」と本多監督はこの疑問をピシヤリ。心の部分でも世界に誇れる射技を選手たちは行っていた。

「支えてくれた関係者の皆様に感謝いたします」と選手たちは最後に語り、本多監督からは「選手たちは一番は一番の役割、二番は二番の役割をそれぞれに果たしてくれました。監督としては何も言うことはありません」と選手たちの労を犒^{なぐさ}めた。

2位Ⅱ台湾チーム

シエンファ・タン選手

「今の気持ちを聞かせてください」「日本チームと競うことができたことを光榮に思います。また、全ての先生たちやイベントのサポーターたちに感謝しています」

弓道の魅力はなんですか

「深遠で奥深く、みなが心の中に感情を秘めているところです。また、(弓を射る際の)フォームが美しいところも魅力です」

今後について

「台湾の中で弓道を奨励する活動をしていきたいです。また、東南アジアでの弓道の発展にも貢献していきたいです」

3位Ⅱイタリチーム

アントニオ・レンゾ選手

「今のお気持ちを聞かせください」「フィンランドとの試合中、とても長いタイブレーク(一本競射)だったので、今はとても疲れました」

弓道の魅力はなんですか

「勉強することが多く、難しい競技です。どこまでやっても満足するところがなく、終わりがいい部分です」

■個人競技

予選は各自4射を1回行い、3中以上の的中者が決勝に進出した。決勝は射詰競射で順位を決定し、3本目以降は星的使用。的中を脱した同位者は遠近競射で決せられた。

◆称号者の部(25日午前より。239名、9力国・地域)

出場者239名(欠席者含)のうち約27%にあたる65名(このうち62名が日本。他にフランス2名、アイスランド1名)が予選を通過。本誌にて「死ぬまで弓道」を鋭意連載中である小牧佳世氏も勝ち進んだ。

射詰競射1本目を終えて35名(海外勢3名はこの時点で姿を消した)、2本目を終えて20名になった。

小牧氏はこの時点で残念ながら敗退となった。3本目より星的使用され、前回優勝の藤野小百合が失中し、通過者は全て男性の11名に絞られた。4本目を終えて7名、5本目を終えて5名に絞られた。5名の中には団体競技・日本代表の補欠である和田尚樹も名を連ねた。

観客が固唾を飲んで見守る6本目。4名が外す中、高橋克徳が一人鮮やかに詰めて勝利を収めた。その後、遠近競射で2位は本橋秀夫、3位は矢野翼に決定した。

◆入賞個人インタビュー

◎称号者の部・優勝Ⅱ高橋克徳選手 (錬士六段、青森)

「優勝するとは予想していなく、嬉しいのがありますが、ビックリしました。射詰競射では他の5名の選手が外しましたので、私も外しても次があるなと思っていました(笑)。中てなくちゃという使命感はなかったですね。勝因は分からないです。」

今できることを一本一本ということでした。普段は働いているため練習量があまり確保できなく、数を引くことができません。ですので、一本一本分析しながら稽古をしています。これからは高段位を目指し、一本一本の向き合い方を見つめ直そうかと思っています」

○2位Ⅱ本橋秀夫選手(教士七段、千葉)

「自分でもとても驚いています。決勝に残ればよいなと思っていたのですが、本当に予想外でした。試合では、なるべく、射の真ん中に入ること、心を掛けていました。それが、上手

く結果に繋がったと思います。今後の目標として、射形に弱い部分があるため、持満のできる会を体得したいと思っています」

▽3位Ⅱ矢野翼選手(錬士五段、宮崎)

「悔しい部分もありますが、素直にやりきったな、というのが率直な感想です。試合では、普段の練習通り、いつも通りということを中心にしました。今後は、国体を目指したいと思っています。まずは宮崎県代表に選ばれるように、そして、大会で優勝できるように練習を続けていきたいと思っています」

◆有段者の部(24日午後より。642名、34力国・地域・団体)

予選は642名のうち、約18%にあたる113名が通過した。

決勝では、射詰競射1本目を終えて63名。2本目を終えて46名。星的に代わった3本目を終えて21名が通過。ポーランドとロシアの選手2名も勝ち残った。4本目を終えて海外勢が姿を消し、選手は9名。5本目終了時には4名に絞られた。

6本目、長谷川雅亮が唯一的中させ、優勝を飾った。遠近競射により、2位大廣建二、3位青木豊の入賞がそれぞれ決定した。

◆入賞個人インタビュー

◎有段者の部・優勝Ⅱ長谷川雅亮選手(四段、東京)

「世界一という名誉なことになり、大変感激しております。大会では、予選そして競射が始まってからもそんなに緊張せずに引けて、練習通りの射ができたと思います。他の日本での大会とは違い、予選では前後が海外の方でした。世界大会なんだと実感しましたね。コミュニケーション



称号者の部・優勝＝高橋克徳(錬士六段、青森)



有段者の部・優勝＝長谷川雅亮(四段、東京)

■レセプションパーティー（4月23日）

大会に先立って4月23日の夕刻、明治記念館にてレセプションパーティーが開催された。同会には国際弓道連盟名誉総裁である高円宮久子妃殿下がご臨席されたほか、鈴木大地スポーツ庁長官、笹川堯全日本空手道連盟会長や日本武道館幹部など招待者、関係者およそ350名が参加した。

会では中野秀也国際弓道連盟会長が開会の挨拶。

「日本古来の伝統文化である弓道も



高円宮久子妃殿下



中野秀也国際弓道連盟会長



多くの関係者が集まり、交流を深めた

平成18年の国際弓道連盟設立をもつて本格的な国際化を果たしてまいりました。平成22年には東京明治神宮にて初の世界弓道大会を、平成26年にはフランス・パリで第2回世界弓道大会を開催しました。弓道の国際化により、ヨーロッパやアメリカ、アジア、オセアニアといった地域をはじめ、南米、アフリカ大陸といったおよそ40カ国で4500名の弓道愛好家が活動しております。これは日本の弓道・武道の精神が広く世界から受け入れられている喜ばしいことです。皆様におかれては、世界各

国の弓道の仲間との交流を通じて、見識を深め、国際親善の一助とすることを期待いたします」

続いて、高円宮久子妃殿下がお言葉述べられました。

「国際弓道連盟は設立から12年を迎える中で、多くの関係者の熱意と努力に支えられ、弓道の振興と普及に大きな貢献を果たしてまいりました。近年、国際的な弓道に対する関心もますます高まっております。こういったことは長年に亘る弓道振興の成果の表れではないかと思えます。この大会に参加される皆様が日頃の研鑽の成果を十分に発揮され、各国から参加されている選手の方々と間に友好の輪が広がり、伝統ある国際大会としての成果もますます高まるよう祈念いたします。また、皆様が互いに交流を深められることによって、新たな友好関係を見出し、弓道のあるべき姿を探索して行くことを期待しております。さらにこの大会を契機として、弓道の国際化への取組が将来に亘り、さらに大きく進むことを願います」

参加者は互いの健闘を願い、弓道談義に花を咲かせた。

ンも取れて楽しいなと思いました」

○2位 大廣建二選手（二段、福井）

「ここまでできるとは思っていませんでしたので、すごく嬉しいです。試合では、基本的には、いつも練習しているところで弓を引いているのと同じようなイメージで臨みました。今後の目標として、今年の福井県で開かれる国体出場に向けて、頑張っていきたいと思えます」

▽3位 青木豊選手（五段、埼玉）

「自分が一番びっくりしています。実際、試合で矢を引いてみたら楽しかったのですが、結果より自分の射をしようという気持ちが強く、そのように臨みました。緊張せずに、いつも通りにやることを心掛けました」

【大会結果】

□団体競技 ①日本、②台湾、③イタリヤ

□個人競技

▽称号者の部 ①高橋克徳、②本橋秀夫、③矢野翼

▽有段者の部 ①長谷川雅亮、②大廣建二、③青木豊

好評発売中

絵と文中村麻美（なかむらまみ）

F4判・上製・98頁・定価（本体2700円＋税）

伝えたい日本のこころ



中村麻美（なかむらまみ）画家・挿画家。
三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大
学卒。大学在学中、日本画教室（田中峰雪氏
に師事）にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教
授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK
BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、
絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした
日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、
テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者
などの挿画を手がける。また、原作新聞小説
挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以
降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。
代表作に『天地人丸紋絵巻』（兼統お船ミュージアム所蔵）、「齋
王」（三重県立斎宮歴史博物館所蔵）など。

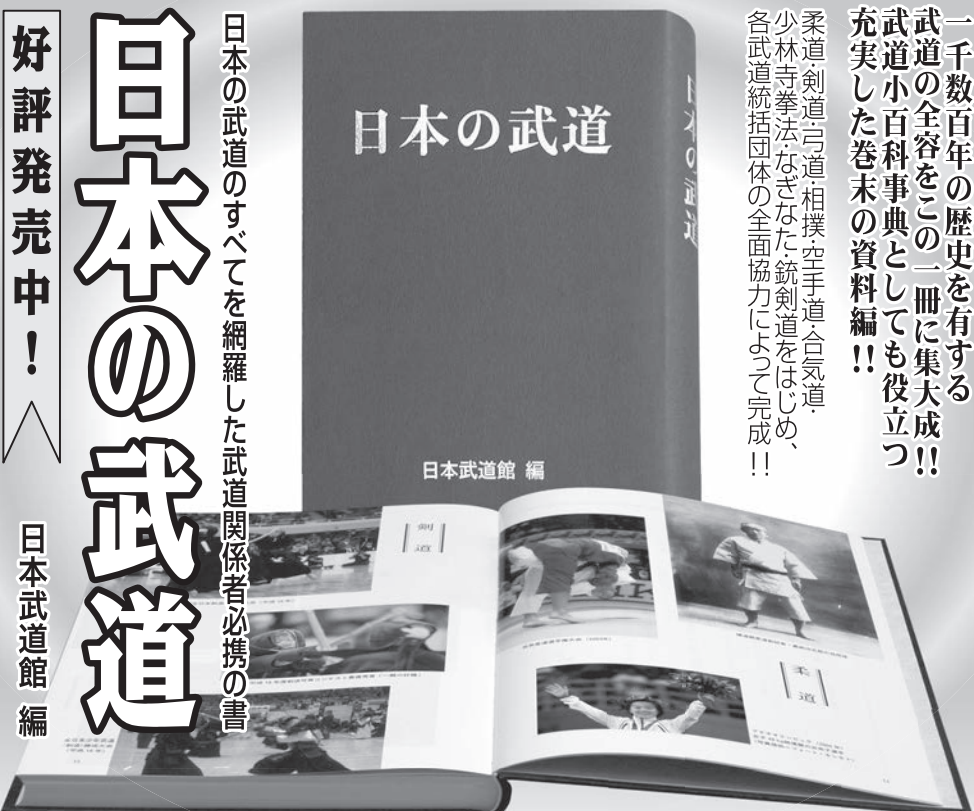
月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本
画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人
間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願
い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりで
す。（本書「あとがき」より）

目次

- かしてこい小僧さん
- ひよどり越え
- 天の石屋戸
- 巖流島の決闘
- 三本の矢の教え
- 山中鹿介——我に七難八苦を与えたまえ
- 良寛さまと菊
- 民を慈しむ仁徳天皇
- 中江藤樹——母への葉
- 夫の危機を救う弟橘媛
- 良子斎王——別れの御櫛
- 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の大蛇
- 十五 川中島の大戦——謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光——笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫——夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎——米百俵の精神
- 二十二 島津義弘——関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后——千人のからだを洗う
- 二十四 城戸俊三——勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺——青葉の楓
- 二十八 神武天皇ご東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山——海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙寛——独楽吟
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇気
- 三十九 明智光春——誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村——大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇——祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火——白菊

編集・発行 公益財団法人日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp	お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ！ TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158
--	--



一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

好評発売中!

日本武道館 編

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」・「武道憲章英訳文」・「武道憲章」）
カラー口絵（日本武道館・9武道・10日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ①国際武道大学 ②国士館大学
③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学
⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書…………… (現職・法人名は刊行時)



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

平成30年全日本柔道選手権大会

原沢久喜が執念の優勝

(日本中央競馬会)



決勝＝原沢久喜（右）が王子谷剛志を内股で攻める



平成30年全国日本柔道選手権大会（主催Ⅱ公益財団法人講道館、公益財団法人全日本柔道連盟）は4月29日に日本武道館で開催された。

大会は全国10地区の予選を勝ち上がった40名に、前年度優勝者と世界選手権優勝者2名の3名を加えた計43名で争われた。

決勝は原沢久喜四段（東京・日本中央競馬会）と王子谷剛志五段（推薦・旭化成）が対戦。

試合はゴールデンスコア（以降GS）に突入すると、原沢は「執念で戦った」と試合終了後に語ったように、不屈の精神で攻め続け、反則負で接戦を制した。

また、本大会は今年9月にアゼルバイジャン・バクーで行われる世界選手権大会の100kg超級日本代表選手の最終選考も兼ねて実施され、優勝した原沢と、本大会3位の小川雄勢（明治大）が代表に初選出された。

1回戦〜3回戦

試合は、国際柔道連盟試合審判規定(2018-2020)および全日本柔道選手権大会申合せ事項で行われ、試合時間は4分。時間内に勝負がつかない場合はGSによる時間無制限の延長戦で勝敗を決した。

◇Aブロック

3連覇を視野に入れる王子谷剛志(旭化成)は2回戦から登場。制野龍太郎(宮城県警)に大外刈で一本勝。3回戦では高田大樹(星槎道都大)に隅落で有効を奪い、すかさず横四方固で一本勝を収めて危なげな

く準々決勝進出を決めた。

昨年の講道館杯で100kg級を制した飯田健太郎(国士舘大)は、2回戦で渡邊勇人(了徳寺学園職員)に内股で一本勝し、3回戦で一昨年準優勝の上川大樹(京葉ガス)と対戦。GS開始22秒、飯田が繰り出した小外刈が技有となる。飯田が準々決勝に進んだ。

◇Bブロック

昨年のグランドスラム東京、4月の全日本体重別選手権を制して勢いに乗る小川雄勢(明治大)は、初戦(2回戦)で寺尾拓真(香川県警)

に払巻込で一本を奪って勝利。3回戦では、ブダベスト世界選手権73kg級覇者の橋本壮市(パーク24)を降した垣田恭平(旭化成)と対決。垣田に指導3が入り、小川が順調に準々決勝へと進んだ。

山口貴也(日本大)は2回戦で村尾三四郎(桐蔭学園高)、3回戦で太田彪雅(東海大)にそれぞれ一本勝し、初のベスト8進出を果たす。

◇Cブロック

3年ぶりの優勝を目指す原沢久喜(日本中央競馬会)は、初戦となる2回戦で田中大貴(新日鐵住金)と対戦。田中に指導3が与えられ僅差で勝利する。3回戦、熊代佑輔(A

LSOK)との試合ではGS開始1分52秒、原沢が隅落から袈裟固で押え込んで一本勝。原沢が再起に向けて準々決勝に勝ち進んだ。

昨年・一昨年3位、平成27年には準優勝と上位常連の七戸龍(九州電力)は、初戦(2回戦)で佐藤和幸(愛知県警)に腕挫十字固を極めて一本勝。3回戦では山下魁輝(国士舘大)に豪快な大外刈を決め、順当に8強入り。

◇Dブロック

本大会で10回目の出場となる加藤博剛(千葉県警)は、初戦の2回戦で木本拓人(日本大)に巴投、3回戦で石内裕貴(旭化成)に小外掛で一本勝し、安定した戦いぶりです。決勝に勝ち上がる。

西山大希(新日鐵住金)は、3回戦で影浦心(日本中央競馬会)と組み合う。GSの末、影浦に指導3が入り、西山がベスト8進出。

また、このブロックではブダベスト世界選手権60kg級覇者の高藤直寿(パーク24)が登場。初戦で敗退したものの小柄ながら100kgの石内裕貴に果敢に立ち向かう高藤に、会場からは大きな拍手が送られた。



3回戦=王子谷剛志(右)が高田大樹に隅落で有効



3回戦=原沢久喜(左)が熊代祐輔に袈裟固を極める



2回戦=高藤直寿(左)対石内裕貴

準々決勝

王子谷剛志 ○袈裟固 飯田健太郎

王子谷が序盤から飯田の奥襟をがっちり離さず、前に詰めながら攻めていくが、なかなか技まで繋がらない。両者に消極的として指導1が入る。その後も組手争いが続き、互いに指導2を重ねる。試合開始3分11秒、王子谷が大外刈から切り替えて釣込腰で有効を奪い、そのまま袈裟固で飯田を抑え込む。飯田は為す術もなく、そのまま王子谷が一本勝を収めて、準決勝に駒を進めた。

小川雄勢 ○内股 山口貴也

大学4年の小川と大学1年の山口による大学生対決。試合開始1分すぎ、山口が大外刈を仕掛けて会場がどよめくが、小川は堪えて決めさせない。体格で勝る小川は体を使って積極的に前に出て、山口を攻め立てる。試合開始1分39秒、小川が山口を場外際に追い込み、豪快に内股を繰り出し、一本勝。今大会初優勝を狙う小川は、準決勝で王子谷との対決を決めた。



準々決勝＝王子谷剛志（右）が飯田健太郎を攻める



準々決勝＝小川雄勢（左）が山口貴也に内股を決める



準々決勝＝原沢久喜（右）対七戸龍



準々決勝＝加藤博剛（下）が西山大希に巴投で有効を奪う

原沢久喜 ○反則負 七戸 龍

3年前の決勝で対戦した両者。原沢には指導1、七戸には指導2が与えられて一進一退の攻防が続く。GSに入ってから拮抗した試合が続き、原沢は指導2を重ねる。後がなくなった両者は、互いに手数を増やしていく。GS開始2分41秒、組手争いから腹這いになった七戸に偽装攻撃として指導3が与えられ、試合終了。原沢が接戦を制して、準決勝に勝ち上がった。

加藤博剛 ○送襟絞 西山大希

虎視眈々と2度目の優勝を狙う加藤と、2回目の準々決勝となった西山の対決。西山は序盤から足技を仕掛けていくが、加藤は軽快に足を使って西山の攻めを躲けていく。試合開始2分58秒、体勢を低くした加藤は、得意の巴投で有効を奪う。そこから加藤は、うつ伏せになった西山にすかさず覆い被さって送襟絞に移り、西山はたまらず参った。加藤が準決勝に進んだ。

準決勝



準決勝＝王子谷剛志（右）が出足払を仕掛ける

王子谷剛志 ○出足払 小川雄勢

本大会3週間前に行われた全日本体重別選手権の2回戦でも顔を合わせた両者。その時は王子谷に指導3が与えられ、僅差で小川に軍配が上がっている。実力者同士の対決は王子谷が右組、小川が左組のケンカ四つ。試合開始33秒、王子谷が小川の一瞬の隙をついて出足払で技有を奪う。早々に有利な状況となった王子谷は、指導1を取られながらも小川に技を決めさせない。残り時間が少なくなると小川も果敢に内股、払腰で攻めていくが、決め手に欠けて試合終了。リベンジを果たした王子谷は、3連覇に王手をかけた。



準決勝＝原沢久喜（上）が内股で勝負を決める

原沢久喜 ○内股 加藤博剛

3年ぶりの頂点に向けて闘志を燃やす原沢と、6年ぶりの優勝を目指す加藤による準決勝。原沢は奥襟を掴んで有利な形で試合を進めるが、加藤が巧みに躲けて一本には繋がらない。対する加藤は、思い通りの組手に持ち込むことができず、故意に組まないとして指導1が与えられる。GS突入後も加藤は攻めあぐね、消極的として指導2を重ねる。原沢は内股、大内刈で加藤にさらに圧力をかけていく。GS開始3分35秒、加藤が釣手を原沢の腰に回した瞬間に原沢が内股を仕掛け、これが技有。原沢が優勝に向けて、決勝に駒を進めた。

決勝



決勝＝原沢（右）が大外刈で攻める



決勝＝原沢（左）は体力の限りに攻め続けた

原沢久喜 ○反則負 王子谷剛志

2月に行われたグランドスラム・デュッセルドルフの決勝で互いに指導3を与えられ、ともに準優勝となった両雄。決戦に向けて闘志を燃やす2人の登場に会場は拍手に包まれた。

王子谷が序盤から足を使って積極的に攻めていく。3連覇への気迫が感じられる。対する原沢も、簡単には主導権を握らせまいと得意の内股で応戦。双方に指導1が入り、一進一退の攻防が続く。GSに入ってもなお緊迫した展開が続く、互いに指導2を重ねる。両者の顔に汗が滴る中、消耗しきった原沢が気合を入れ直して足を掛けにいく。それに対して王子谷は足を抜いて躲くのが精一杯。王子谷に故意に組まないとして指導3が宣告されて試合が終了した。9分16秒の熱戦を耐えて3年ぶりの優勝を果たした原沢は、涙を堪えきれなかった。

苦悩の末に掴んだ、復活の優勝

◎優勝Ⅱ原沢久喜四段（日本中央競馬会）
はらさわひさよし



閉会式を終え、なおも汗だくの原沢選手が試合を振り返った。

「初戦から接戦ばかりで、一戦一戦疲労と戦いながら勝ち進んできました。今は優勝できてほっとしています。（決勝戦は）戦術を考える体力も残ってなくて、がっぷり組むことしかできなかったです。決勝戦の記憶はあまりないのですが、とにかく勝ちたいという一心でやりました。執念で戦ったのかなと思います」

オーバートレーニング症候群を患い、昨年の世界無差別級選手権やグラインドスラム東京の欠場を余儀なくされた原沢選手。今大会でも体力への不安があったという。

「昨年、オーバートレーニング症候群と診断され、復帰したばかりでスタミナには自信がありませんでした。立っているだけで辛かったのですが、途中からゾーンに入ったような感覚になり、辛さを乗り越え、また一段、階段を登ることができたと思います」

原沢選手は成績不振が続く中、退路を断つために、4月をもって所属の日本中央競馬会を退社することを決めた。最後に、今後の決意を語った。

「会社の方々にも応援に来ていただき、自分は幸せ者だなと涙が出ていました。会社を辞めることを決めたのは自分自身です。それを応援してくれる人たちへの一番の恩返しは東京オリンピックで金メダルを取ることだと思います。5月からの所属先はまだ決まっていませんが、自分の道を見つけたら、あと2年柔道に賭けていきたいです。人生、何事も上手くいくことがかりじゃないと思いますが、そういう経験が自分をさらに強くさせてくれるのかなと思います。今日は喜びますが、また明日からは次に向けて頑張っていきます」

○準優勝Ⅱ王子谷剛志選手（旭化成）



「決勝戦は」気持ちで戦い抜いたんですけど、最後まで耐えきれなかつたのは自分の弱さだと思います。一試合場でのびのびとできるのは全日本選手権しかないですし、だからこそ魅力がある大会だと思います。全日本体重別選手権で負けた現実を受け止めて、この3週間は気持ちを切り替えて取り組もうとやってきました。（2020年東京オリンピックまで）あと2年なので、耐えて、最後に笑って終わることができたらいいなと思います」

▽3位Ⅱ加藤博剛選手（千葉県警）



「この歳になると一年一年が勝負です。最後は自分らしさが足りなかつたと思います。この大会は楽しく試合ができるので、重荷を感じることなく試合ができています。できることならあと5回は出場したいですね。そして、このように上位に入って終わりたいです」

▽3位Ⅱ小川雄勢選手（明治大）



「この大会で優勝することを目標としていたので、3位という結果に満足していません。去年の自分よりは進歩していると思いますが、それでも優勝に届かなかったのは、自分の力が足りなかったのだと思います」

▽5位Ⅱ西山大希選手（新日鐵住金）



「今回優勝して、オリンピックや世界選手権でも通用するところを見せたかったのですが、加藤さんに負けてしまい、悔しいです」

▽ブダペスト世界選手権60kg級

金メダルⅡ高藤直寿選手（パーク24）



「会場中が応援してくれました。心地良く試合ができました。投げそう

な時には会場が湧いてくれたので、がんばりたいという強気になれました。ぜひまた挑戦して、次は勝ちたいですね」

平成30年 全日本柔道選手権大会

優勝 原沢 久喜

○反則負																																
○出足払												○内股																				
○袈裟固						○小外刈						○反則負						○内股														
○横四方固		○大腰		○合技		○内股		○内股		○内股		○反則負		○反則負		○反則負		○大内返		○払腰		○反則負										
王子谷剛志	制野龍太郎	西尾徹	高田大樹	今泉雪太郎	上林山裕馬	飯田健太郎	清山一樹	渡邊勇人	小川雄勢	寺尾拓真	橋本壮市	垣田恭兵	長尾翔太	太田彪雅	白川剛章	山口貴也	近藤拓也	村尾三郎	七戸龍幸	佐藤寛太	河坂有希	山下魁輝	原久喜	増田大貴	熊代佑輔	石川竜多	郡司拳佑					
五段	四段	三段	三段	四段	五段	三段	四段	三段	三段	四段	五段	五段	五段	四段	三段	三段	四段	四段	五段	五段	三段	三段	四段	四段	四段	五段	三段					
(推)	(東)	(近)	(北)	(関)	(東)	(京)	(京)	(関)	(東)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)	(京)					
薦・旭化成	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察	北・宮城警察					
6	3	初	初	初	8	初	初	初	3	初	初	5	7	初	2	初	初	初	初	8	3	初	初	初	6	初	4	3	初			
Aブロック									Bブロック									Cブロック									Dブロック					



極の形＝取・鮫島元成八段
受・南保徳双六段



五の形＝取・宗義明八段
受・眞喜志慶治七段



投の形＝取・小野卓志六段
受・窪田友樹五段

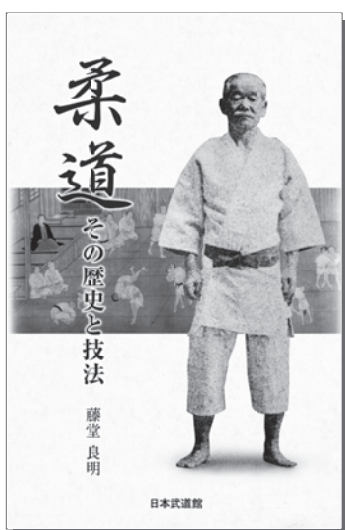
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

第一章 組討ちの起こりと技法

体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法

第二章 柔術諸流派の歴史と技法

竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術

第三章 講道館柔道の歴史と技法

講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選手権大会の開催と技法

第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法

第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法

第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題

柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

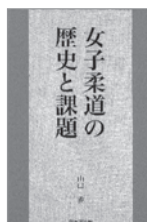


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 一その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

第 33 回皇后盃全日本女子柔道選手権大会 素根 輝が皇后盃に輝く

南筑高 3 年、初出場・初優勝の快挙





決勝＝素根輝（左）が大内刈で富田若春を攻める



素根 輝 高校生女王誕生までの軌跡

- 2回戦 ○合 技（2分25秒）小山内茉緒
内股・横四方固
- 3回戦 ○上四方固（1分34秒）大住 有加
- 準々決勝 ○崩袈裟固（4分07秒）西願寺里保
- 準決勝 ○反 則 負（7分05秒）朝比奈沙羅
- 決 勝 ○反 則 負（5分01秒）富田 若春

第33回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（主催Ⅱ講道館、全日本柔道連盟）は4月22日、横浜文化体育館において開催された。推薦選手3名と全国各地の予選を勝ち抜いた代表34名の計37名が、体重無差別の女子柔道日本一を目指し、白熱した試合を展開した。

試合は国際柔道連盟試合審判規定（2018―2020）および全日本選手権大会申合せ事項で行われ、試合時間は4分間、スコアに差がない場合はゴールデンスコア（以下GS）による時間無制限の延長戦を行い、勝敗を決した。

決勝戦は、前回女王の朝比奈沙羅とのライバル対決を制して勝ち上がった素根輝（推薦・南筑高校3年）と、2回目の出場で初の決勝進出を果たした富田若春（東京・コマツ）との対戦となった。

素根は練習で培った持ち前のスタミナでGSを戦い抜き、初出場にして優勝という史上初の快挙を成し遂げた。

16歳で本大会を制した阿武教子氏以来、史上2人目の高校生女王となった。

■1回戦から3回戦まで

▽Aブロック

28回大会女王の緒方亜香里（関東・了徳寺学園）が初戦となる2回戦で姿を消す。このブロックを勝ち上がったのは今年の全日本選抜体重別選手権大会78kg級を制した高山莉加（東京・三井住友海上）とインターハイ優勝経験のある富田若春（東京・コマツ）。高山は指導3で緒方に競り勝った秋場麻優（中国・環太平洋大）に延長の末、指導3で勝利。富田は市川香代子（東北・宮城県警）を大内刈で仕留め8強へ。

▽Bブロック

今大会で13回目の出場となった田知本愛（推薦・ALSO K）は2回戦から登場。試合中に負傷した左膝の影響で3回戦を棄権。これにより初出場の井上舞子（関東・淑徳大）が不戦勝で8強入り。西田香穂（東京・JR東日本）は、2回戦の富田彩加（近畿・龍谷大）を小外掛からの崩上四方固、3回戦の後藤美和（東京・日光警備）を隅落からの崩上四方固とスムーズな寝技への移行で合技一本を連取し、初出場で準々決勝へ駒を進めた。

▽Cブロック

昨年女王・優勝候補の朝比奈沙羅（推薦・パーク24）が登場。2回戦のヌンイラ華蓮（関東・了徳寺学園）を送襟絞で仕留め、3回戦の山本沙羅（北信越・福井県スポーツ協会）を指導3で退け、順当にベスト8進出。1月の国際大会で優勝し、勢いのある泉真生（関東・山梨学院大）は小林幸奈（近畿・龍谷大）をGSの末、浮落による技有、続く小野華菜恵（東京・早稲田大）を合技一本で破り、4度目の挑戦で自身初の準々決勝進出を決める。

▽Dブロック

超高校級との呼び声が高い素根輝（推薦・南筑高）が前評判通りの実力を見せつけ、2回戦の小山内茉緒（四国・創価大）に内股からの横四方固で、3回戦の大住有加（東京・JR東日本）に上四方固でそれぞれ一本勝ちし、4回戦に進出した。西願寺里保（東京・コマツ）は長身を活かした組手で試合を優位に進め、小棕香澄（北海道・旭川大）を崩上四方固、井上あかり（中国・環太平洋大）を指導3で破り、ベスト8に名乗りを上げた。



2回戦＝緒方（手前）は攻めるもポイントには届かず



2回戦＝田知本（左）は左膝を負傷したが攻め続ける

皇后盃全日本女子柔道選手権大会 栄光の記録

第1回	八戸かおり	第17回	塚田 真希
第2回	田辺 陽子	第18回	塚田 真希
第3回	田辺 陽子	第19回	塚田 真希
第4回	田辺 陽子	第20回	塚田 真希
第5回	田辺 陽子	第21回	塚田 真希
第6回	田辺 陽子	第22回	塚田 真希
第7回	田辺 陽子	第23回	塚田 真希
第8回	阿武 教子	第24回	塚田 真希
第9回	阿武 教子	第25回	塚田 真希
第10回	阿武 教子	第26回	杉本 美香
第11回	阿武 教子	第27回	山部 佳苗
第12回	二宮 美穂	第28回	緒方亜香里
第13回	二宮 美穂	第29回	山部 佳苗
第14回	阿武 教子	第30回	田知本 愛
第15回	山下まゆみ	第31回	山部 佳苗
第16回	薪谷 翠	第32回	朝比奈沙羅

※太字は今大会出場選手

■準々決勝①

富田若春 ○背負投 高山莉加

昨年3位の高山と、ここまで全試合で一本勝の富田の対戦。お互いに右組の相四つ。高山は、体重差25kgをものともせず、組み際の技や寝技で試合のペースを握るもポイントにはつながらずGSへ。GSに入ると体格で勝る富田が徐々に流れを引き寄せる。GS2分55秒、富田が一瞬の隙を逃さず、体全体を使った巻き込むような背負投で一本勝し、自身初の準決勝進出を果たした。



準々決勝①＝富田（手前）が豪快な背負投で一本勝

■準々決勝②

井上舞子 ○横四方固 西田香穂

全日本学生体重別選手権大会で上位進出経験のある初出場同士の顔合わせ。井上が左組、西田が右組のケンカ四つ。西田は引手を持つと得意の内股、払腰で井上を攻め、序盤から試合を有利に進める。しかし、試合終盤に井上が反撃に転じる。両襟を持ち、強引に仕掛けた内股で有効を奪う。そのまま素早く横四方固に抑え込み、一本勝し、準決勝に駒を進めた。



準々決勝②＝井上（左）が内股で有効を奪う

■準々決勝③

朝比奈沙羅 ○隅落 泉 真生

連覇を狙う朝比奈と初の8強入りした泉が対戦。両者右組みの相四つ。泉を体重で約50kg上回る朝比奈は、開始13秒に支釣込足で泉のバランスを崩したところに体を浴びせるように隅落で技有を奪う。ポイントをリードされた泉は朝比奈の奥襟を掴み、足技からの連絡技で巻き返しを図るも、前回女王の牙城を崩せず試合終了。朝比奈が連覇に向けて準決勝進出を決めた。



準々決勝③＝朝比奈（右）が開始早々に技有を奪う

■準々決勝④

素根輝 ○崩袈裟固 西願寺里保

高校生の素根と、70kg級でありながら激しい組手争いを制してここまで勝ち進んできた西願寺の対戦。西願寺が試合開始からプレッシャーをかけ、前に出る展開。なかなか自分の形を作れない素根だったが、2分36秒に小外掛で有効を奪取。その後も担ぎ技を中心に攻め、西願寺が崩れたところをすかさず崩袈裟固で抑え込み一本勝。初出場の素根が準決勝に進んだ。



準々決勝④＝がっちり抑え込む素根（上）

■準決勝①

富田若春 ○反則負 井上舞子

富田が右組、井上が左組のケンカ四つ。井上が上から富田の釣手を潰しにかかるが、富田は下から突き上げて相手の釣手を自由にさせない。互いに引手が取れず、故意に組まないとして指導2まで累積したところで本戦4分が終了。延長戦に入ると両者積極的に得意技を仕掛けるが決め手に欠け、スコアは動かない。延長9分過ぎに富田が連続で技を仕掛け、一気に勝負に出る。延長9分43秒、井上に指導3が与えられ、13分を超える熱戦は富田に軍配が上がった。富田は出場2回目での決勝進出を果たした。



準決勝①＝富田（右）が内股で仕掛ける

■準決勝②

素根 輝 ○反則負 朝比奈沙羅

2週間前の選抜体重別78kg超級決勝と同じ顔合せ。その時はGSの末、素根が朝比奈から初勝利を収めている。素根は、選抜体重別後も重点的に練習したという組手で朝比奈に良いところを持たせない。手の内を知り尽くした両者は中盤まで技が出ず、互いに指導2を積み重ねる。先に動いたのは朝比奈。払巻込で有効を奪う。しかし、直後に技が不十分と判断され有効を取り消される。勝負の行方はGSへ。試合前、体力には自信があると語った素根は、休まず攻め続け、朝比奈を追い詰める。そしてGS3分が過ぎたところで受けに回っていた朝比奈に3つ目の指導が与えられ、勝負あり。素根が初出場で決勝への切符を手にした。



準決勝②＝素根（左）が組手争いで試合の主導権を握る

■決勝

素根 輝 ○反則負 富田若春

13分を超える準決勝で消耗していた富田は序盤から消極的な姿勢で指導を受ける。反対に素根は、最大の山場であった朝比奈との準決勝を終えても気持ちを切らすことなく決勝に臨めたと、最後まで集中して技を掛け続けた。素根が連続で技を仕掛け、富田を追いつ込む。GSに入っても攻めの姿勢を貫き、1分が経過したところで防戦一方の富田に指導3が与えられ、反則負を宣告される。この瞬間、大会史上初の初出場で優勝という快挙を成し遂げた。素根は、16歳で優勝した阿武教子^{あののりこ}氏に次ぐ、史上2番目となる17歳の若さで女子柔道無差別日本一の称号を手にした。



決勝＝素根（左）が払腰で富田を攻める



決勝＝延長戦に入っても攻め続ける素根（左）

17歳、高校生の女王誕生

◎優勝Ⅱ素根輝選手そねあきら（福岡県・久留米市立南筑高等学校3年）



重別で初勝利を収めるまでに3連敗と、皇后盃を手にするためには乗り越えなくてはならない高い壁として立ちだかっていた。

「選抜体重別で2連覇してから特別なことはせず、今までやってきたことを反復練習してきました。特に組手はあらゆる展開を想定し、試合を意識して重点的にやってきました」

4月8日に行われた全日本選抜体重別選手権大会の連覇に続いて、またしても高校生の素根が偉業を達成した。選抜体重別の時は涙の優勝だったが、今回は満面の笑みで喜びを語った。

その成果は顕著に現れた。上背のある朝比奈に対し、身長で劣る素根は釣手で下から突き上げ、朝比奈の得意な形を作らせなかった。

「選抜体重別と皇后盃は絶対に優勝したい大会でした。一試合場での大会が初めてで、選抜体重別とは違う雰囲気でしたが目の前の試合に集中出来ました。今大会は初出場ということで挑戦者の気持ちで思い切りやろうと思っていました。少し緊張しましたが楽しく試合することが出来ました。練習に付き合ってくれたお兄ちゃんに感謝しています」

「準決勝では、有効の宣告を聞いたときは一瞬焦りましたが、取り消されたことで、気持ちの切り替えが出来ました。攻めるため、左の釣手を下げないことを常に意識しました」

全5戦のうち準決勝と決勝はGSの末、接戦をものにした。延長戦に入ってから攻めが鋭くなるような傾向にあるが意識しているのか。

「簡単に勝てる試合は一つもないと思っていました。練習量では誰にも負け

ていないし、スタミナにも自信があります。気持ちの面でも誰にも負けたくない、絶対に勝つてやるという思いで臨みました。正直、投げて勝ちたかったですが最後まで攻め続けることで相手の指導3につながったと思います」

普段から朝練、夕方の全体練習の他に約2時間の自主練習を行っているという。試合前の練習では監督や周りの部員から止められるほどで、とにかく本人が納得するまで練習を続ける。その努力により、延長戦に入っても技を掛け続けることが出来るスタミナを身につけた。

朝比奈に2連勝し、いよいよ世界選手権の日本代表が見えてきた。現在の朝比奈との距離について語った。

「今回の優勝で良いアピールが出来たと思います。代表に選ばれたら絶対に優勝したいです。朝比奈選手との初対戦の時は圧倒的な力の差を感じましたが、少しは距離が縮まってきたと思います。今後、世界一を目指すには最後まで掛け切る技と組手が重要になってくると思います」

加速する素根の成長。2年後の東京オリンピックで活躍する姿を期待せずにはられない。

◎準優勝Ⅱ富田若春選手

「去年4月に膝の手術をし、この大会は高校3年生以来の出場となりました。皇后盃という大きな大会での準優勝は素直に嬉しいです。決勝まで来れたことは、今後につながると思います。素根選手には選抜体重別で負けているので、リベンジしようと思い臨みましたが、思うような試合運びが出来ませんでした。国内では、まだまだ結果を残せていません。これからも頑張りたいです」

▽第3位Ⅱ朝比奈沙羅選手

「相手に負けたというより自分に負けた感じです。準決勝では、しっかりと投げ切っていればポイントを取れたところ、技の極めが甘く、有効が取り消されてしまった。あの場面が一番きつかったです。負けることを軽く考えているわけではありませんが、負けたときは強くなれるチャンスだと思っています。選抜2位、皇后盃3位という結果を受け止め、2020年の東京オリンピックまで時間のない中で、今回の負け試合をどう勝利につなげるかを考えていきたいと思っています」

第33回皇后盃
全日本女子柔道選手権大会

優勝 素根 輝

Aブロック		Bブロック		Cブロック		Dブロック	
緒方亜香里	五段	田嶋 由佳	二段	泉 真生	三段	梅津 志悠	三段
井上 愛美	三段	藤原 恵美	三段	山本 沙羅	四段	井坂 希望	三段
高山 莉加	三段	田知本 愛	五段	菅原 歩巴	三段	井上あかり	三段
市川香代子	三段	富田 若春	三段	スニラ華蓮	三段	小椋 香澄	三段
黒坂 麻樹	三段	田中 伶奈	二段	朝比奈沙羅	四段	西願寺里保	三段
石山 麻弥	三段	石山 麻弥	三段	古枝あさひ	二段	村井 惟衣	三段
内股		近畿・日本エースサポート		富田 彩加	三段	大住 有加	四段
内股		近畿・大阪府警察		西田 香穂	三段	中江 美裕	三段
内股		推薦・ALSOK		後藤 美和	三段	小山内菜緒	二段
内股		推薦・ALSO		桑田 晴乃	三段	素根 輝	二段
内股		推薦・ALSO		井上 舞子	三段	佐藤 陽子	二段
内股		推薦・ALSO		田嶋 由佳	二段	柴原 佑佳	三段
内股		推薦・ALSO		藤原 恵美	三段	小野華菜恵	三段
内股		推薦・ALSO		田知本 愛	五段	小林 幸奈	三段
内股		推薦・ALSO		富田 若春	三段	泉 真生	三段
内股		推薦・ALSO		田中 伶奈	二段	山本 沙羅	四段
内股		推薦・ALSO		石山 麻弥	三段	菅原 歩巴	三段
内股		推薦・ALSO		黒坂 麻樹	三段	スニラ華蓮	三段
内股		推薦・ALSO		市川香代子	三段	朝比奈沙羅	四段
内股		推薦・ALSO		高山 莉加	三段	古枝あさひ	二段
内股		推薦・ALSO		井上 愛美	三段	富田 彩加	三段
内股		推薦・ALSO		緒方亜香里	五段	西田 香穂	三段
内股		推薦・ALSO				後藤 美和	三段
内股		推薦・ALSO				桑田 晴乃	三段
内股		推薦・ALSO				井上 舞子	三段
内股		推薦・ALSO				田嶋 由佳	二段
内股		推薦・ALSO				藤原 恵美	三段
内股		推薦・ALSO				田知本 愛	五段
内股		推薦・ALSO				富田 若春	三段
内股		推薦・ALSO				田中 伶奈	二段
内股		推薦・ALSO				石山 麻弥	三段
内股		推薦・ALSO				黒坂 麻樹	三段
内股		推薦・ALSO				市川香代子	三段
内股		推薦・ALSO				高山 莉加	三段
内股		推薦・ALSO				井上 愛美	三段
内股		推薦・ALSO				緒方亜香里	五段

段位 地区 所属 出場回数

■世界選手権大会、アジア競技大会の代表選手決まる

今大会は2018年9月20〜27日にアゼルバイジャンのパクーで開催される世界柔道選手権大会の78kg超級の日本代表最終選考会を兼ねており、試合終了後に全日本柔道連盟強化委員会が開催された。強化委員会終了後に全ての階級で女子日本代表選手が決定した。

最大で7階級9名までエントリー可能な世界選手権。しかし、その個人戦代表選手の中に今大会優勝の「素根輝」の名前はなかった。

各階級1名の他、2枠目として選出された1人目は、52kg級の阿部詩。素根と同じ高校3年生で、講道館杯等主要大会での優勝や国際大会で外国勢に対し負けていないことが評価された。2人目は、70kg級の新井千鶴。こちらもグランドスラム等選考対象大会で3大会連続のファイナリストとして海外勢に強いことが評価され、選出となった。

加えて、世界選手権の前月に行われるアジア競技大会へ派遣する日本代表選手が決定した。

◇世界柔道選手権大会

▽48kg級	渡名喜風南
▽52kg級	志々目 愛
▽57kg級	阿部 詩
▽63kg級	芳田 司
▽70kg級	田代 未来
▽78kg級	大野 陽子
▽78kg超級	新井 千鶴
▽78kg超級	濱田 尚里
▽78kg超級	朝比奈沙羅

◇アジア競技大会

▽48kg級	近藤 亜美
▽52kg級	角田 夏実
▽57kg級	玉置 桃
▽63kg級	鍋倉 那美
▽70kg級	新添 左季
▽78kg級	佐藤 瑠香
▽78kg超級	素根 輝



好評発売中

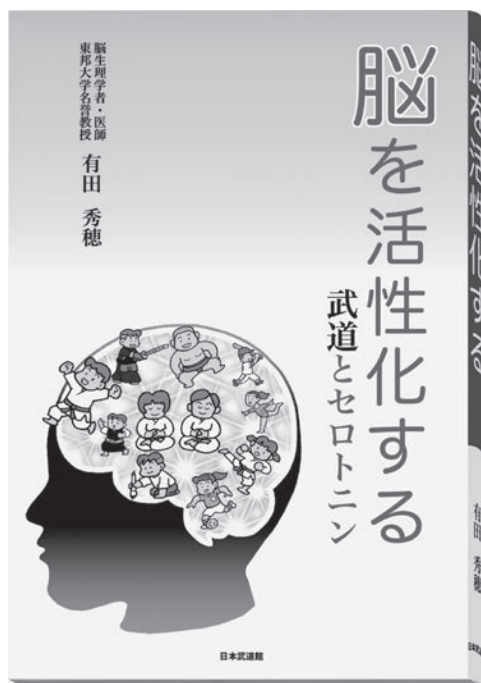
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1,600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

役に
立つ

少年柔道指導法

DVD付き

役に
立つ 少年柔道指導法

向井 幹博



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

〈目次〉

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第1部 解説編 | 第9章 少年柔道の未来のために |
| 第一章 少年柔道は柔道指導の原点 | 第二章 実技編 |
| 第二章 基本動作の指導 | 第一章 礼法の指導 |
| 第三章 技の指導 | 第二章 受け身の指導 |
| 第四章 教育の中の柔道 | 第三章 基本動作の指導 |
| 第五章 指導の工夫 | 第四章 トレーニング法の指導 |
| 第六章 少年規定の変遷と問題点 | 第五章 柔道の練習法 |
| 第七章 柔道の安全指導 | 第六章 投技の指導 |
| 第八章 東日本大震災への講道館の対応 | 第七章 固技の指導 |

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第62回全日本銃剣道優勝大会

一般の部

本間道場 A が優勝を果たす

防衛省
第1部

第42即応機動連隊が初優勝

防衛省
第2部

対馬駐屯地が連覇



第62回全日本銃剣道優勝大会（主催Ⅱ全日本銃剣道連盟、後援Ⅱ防衛省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、日本武道館、日本武道協議会ほか）が小雨の降る4月15日、日本武道館で開催された。大会はすべて団体戦で、一般の部、防衛省第1部、防衛省第2部の3部門に分かれ、全国各地から計226チームおよそ1200名が参加して実施された。

一般の部では、本間道場A（神奈川県）が九徳塾A（滋賀）を3―0で破り、優勝を果たした。防衛省第1部では、第42即応機動連隊（熊本）



一般の部決勝・中堅戦＝本間道場 A・野原（左）が上胴を決める

が第12普通科連隊（鹿児島）を4―1で降して初優勝。防衛省第2部では、前回優勝の対馬駐屯地（長崎）が日本原駐屯地（岡山）を3―2で破って2連覇に輝いた。



試合は、トーナメント形式、時間は3分、3本勝負により行われ、時間内に勝負が決しない場合は、判定により勝敗を決した。

開会式では、酒井健大会会長（全日本銃剣道連盟会長）が挨拶。

「皆様にはこの大会に参加するという意義をしつかりと受け止め、正しく、強く、そして美しい剣と心を発揮していただきたい。また、歴史の中で、銃剣道は武道として発展し、現代武道9種目のうちの一つになりました。若い世代の育成にも尽力してほしいと思います」

優勝旗返還に続いて佐藤正久外務副大臣・参議院議員より「私の銃剣道の原点は帯広駐屯地で鍛えられたことです。大会では大将として参加をし、窮地の展開から一本をとった記憶があります。皆様も日頃の成果を大いに発揮してください」と、次に三藤芳生日本武道館常任理事・事



三藤 芳生
日本武道館常任理事・事務局長



佐藤 正久
外務副大臣・参議院議員



酒井 健
全日本剣道連盟会長

務局長より「日頃より仲間とともに鍛えた技と心の銃剣道の真髄を遺憾なく発揮してください。本大会を通じて銃剣道が国民、特に青少年に普及発展されることを祈念し、祝辞といたします」と来賓祝辞がそれぞれ述べられた。野田峻佑選手(神奈川・本間道場A)の選手宣誓があり、開会式は終了。連盟功労表彰式の後、試合は開始された。

一般の部(3人制・44チーム)

昨年優勝の神奈川県選抜は今年も同じメンバーが本間道場Aとして出場。初戦となる2回戦では九徳塾B(滋賀)を、3回戦では福岡県選抜を、4回戦では岩手県選抜を全て3-0で破り、順当に勝ち上がる。準決勝では新潟県選抜Bと対戦した。準決勝、本間道場は、先鋒戦で野田が上胴により一本勝ちとなる。中堅戦では、野原が上胴で先取し、下胴で二本勝ちする。大将戦、鈴木は上胴を連取した。本間道場Aは準決勝でも3-0と強さを見せて、新潟県選抜Bを破り、決勝まで上り詰めた。対して、九徳塾A(滋賀)は、初戦となる2回戦では新潟県選抜Aを、3回戦では防衛大学校C(神奈川)をそれぞれ3-0で、4回戦では伊勢剣友会(三重)を2-1で降し、駒を進めた。準決勝では高校生チームの日本航空高校石川A(石川)と対戦。準決勝、九徳塾は、先鋒戦で岡本が上胴一本で勝利。中堅戦で田中も上胴一本と続く。大将戦では寺村が上胴を二本決めて勝利。

九徳塾Aは3-0で日本航空高校石川に勝利し、決勝へと進んだ。

▽決勝

本間道場A 3-0 九徳塾A

野田峻佑 上下ー 岡本共平

野原 崇 上上ー 田中雅人

鈴木崇之 上上ー上 寺村大佑

先鋒戦、開始早々に本間道場・野田が近間から九徳塾・岡本に上胴を

鮮やかに決めて先取する。なおも攻勢に出る野田。岡本も負けじと攻撃を仕掛ける。互角の攻防となる中、互いに機を窺う。終了間際、野田は上胴と見せかけて空いた岡本の下胴を決めて勝利。優勝へ向けて大きく前進した。

中堅戦、開始直後に互いに突き合う激しい展開を見せる。遠間から本間道場・野原が上胴を突く。九徳塾・



一般の部決勝・中堅戦＝上胴を繰り出す本間道場・野原(左)

田中はこれを捌き切れずに一本。二本目、野原が出端を捉えて、再び上胴を奪った。この時点で本間道場Aの優勝が決まった。

大將戦、前半に本間道場・鈴木は攻めてきた九徳塾・寺村の突きに合わせて上胴を決めて先取る。なおも鈴木は攻撃の手を緩めない。しかし、寺村は鈴木木の突きに応じて上胴を決めて意地をみせる。最後は鈴木が上胴で二本勝ちを収め、本間道場Aは3―0で優勝を果たした。

勝利を本間代午郎先生に捧ぐ

◎優勝Ⅱ本間道場A（神奈川）

安西直毅監督

「今日は本間道場の創始者である本間代午郎先生^{まだごろう}の命日でした。そんな日に優勝できて、すごく良かったなと思っております。去年優勝した神奈川選抜と同じメンバーでの出場でしたが、本間先生の命日での大会でしたので、今年は無理を言って本間道場Aで参加しました。決勝では、落ち着いて、本間先生に教わった自分から向かっていく剣というのを最後まで出せたのでは、と思っています」

防衛省第1部（5人制・70チーム）

ベスト4には、第42即応機動連隊

（熊本）、第16普通科連隊（長崎）、

第12普通科連隊（鹿児島）、第36普通科連隊（兵庫）が勝ち上がる。

準決勝、第42即応機動連隊対第16普通科連隊の対戦。先鋒戦は16普

連・中村が判定により勝利。次鋒

戦、42即機連・藤井は先取されるも

の、上胴の連取により勝利する。

中堅戦、42即機連・田上は判定によ

り辛勝。副将戦では、16普連・永富

が上胴を決めて、勝者数で42即機連

に並ぶ貴重な勝ち星を上げた。大將

戦、42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

第42即機連・角は判定により勝利。

▽決勝

第42即応機動連隊4―1第12普通科連隊

織田慶一朗

藤井星丸

田上雅大

宮本翔

角康大

判―

判―

上―

判―

判―

末藤雄二

榎園真次

井下佑也

久保田幸希

竹島慎一郎

は4―1で第36普通科連隊を破り、決勝へと駒を進めた。

先鋒戦、次鋒戦は決め手に欠けてそれぞれ42即機連・織田、同・藤井が判定勝ちとなる。

中堅戦、近間での攻防が続くなか、42即機連・田上が優位に試合を進める。終盤、12普連・井下が後退したところに、田上は上胴を突き、見事な一本を奪った。そのまま試合は終了。田上は決め手となる白星を上げ、この時点で優勝を決めた。副



防衛省第1部決勝・中堅戦＝42即機連・田上（左）が上胴で優勝を決めた

将戦は12普連・久保田が、大将戦は42即機連・角がそれぞれ判定により勝利を収めた。4―1で第42即応機動連隊が初優勝を飾った。

努力で掴んだ10年越しの初優勝

◎優勝Ⅱ第42即応機動連隊（熊本）

市原茂監督

「ここ10年間、幾度も決勝に立てども立てども、勝てずに苦汁を嘗めてきました。今年こそ最高のチームが出来上がったという思いで臨んだ結果、選手が一致団結して、勝利を掴むことができました。感無量です。田上選手が決め手となる一本をとりました。足、膝に負担をかけながらも、彼の努力の結果が最後の一本に繋がったのだと思います」

防衛省第2部（5人制・12チーム）

準決勝では、対馬駐屯地（長崎）が空挺団岐阜基地（岐阜）を5―0で、日本原駐屯地（岡山）が旭川駐屯地（北海道）を3―2で破り、それぞれ決勝へと進出した。

▽決勝

対馬駐屯地 3―2 日本原駐屯地

岩橋 練 ――上上 植田晋悟

尾崎秀次郎 上― 二宮祐樹

北慎一郎 上― 徳田裕人

森田年彦 上上― 大庭裕二

竹中宏信 ――上上 藤原考貴

先鋒戦、日本原・植田が上胴で先取。終了間際、再び植田が上胴を決めて二本勝ちとなる。

次鋒戦、中堅戦と対馬の尾崎と北がそれぞれ上胴で一本勝ちを収め、対馬は一気に形勢を逆転して、連覇に王手をかける。

注目の副将戦、前半から積極的に攻める対馬・森田。中盤には突きにより日本原・大庭を後退させ、怯んだ大庭に上胴を鮮やかに決めた。二本目、森田は大庭の出端に合わせて上胴を奪取。大一番で金星を上げた森田。森田の二本勝ちにより、この時点で対馬は優勝を決めた。

大将戦は、日本原・藤原が上胴を連取して勝利。日本原は最後に意地を見せた。試合は3―2で対馬が日本原を破り、2連覇・4回目の優勝を達成した。



防衛省第2部決勝・中堅戦＝対馬・北（左）の上胴

連覇の更新を目指して

◎優勝Ⅱ対馬駐屯地（長崎）

大将・竹中宏信選手

「2連覇できてすごく嬉しいです。決勝の日本原戦は絶対に負けたくないと、挑んだ試合でした。森田選手が決めてくれた時はホッとしました。自分も勝って終わりたいかったですけどね。チームは勝ってよかったと思います。自分たちの癖も見られていいと思いますので、3連覇をするというのは非常に難しいことですが、頑張っていきたいです」



防衛省第2部決勝・副将戦＝対馬・森田（左）の上胴

【大会結果】

▽一般の部Ⅱ①本間道場A（神奈川県）②九徳塾A（滋賀）③日本航空高校石川A（石川）、新潟県選抜B（新潟）

▽防衛省第1部Ⅱ①第42即応機動連隊（熊本）②第12普通科連隊（鹿児島）③第36普通科連隊（兵庫）、第16普通科連隊（長崎）

▽防衛省第2部Ⅱ①対馬駐屯地（長崎）②日本原駐屯地（岡山）③旭川駐屯地（北海道）、（空岐阜基地（岐阜）



一般の部優勝＝本間道場 A (神奈川)



防衛省第2部優勝＝対馬駐屯地 (長崎)



防衛省第1部優勝＝第42即応機動連隊 (熊本)



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中

漫画家
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！



B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。